

## 新任保健師の結核患者支援の向上に

### 活かす熟練保健師の実践知

#### 一 新任保健師と熟練保健師の 患者支援の分析と比較から 一

木添 茂子（応用看護学）

【キーワード】 結核患者支援・新任保健師・実態・  
熟練保健師・実践知

本研究の目的は、新任保健師の患者支援の実態や困難感をふまえ、新任保健師の結核患者支援の向上に活かす熟練保健師の実践知を見出すことである。入庁3年以内に、初めて結核・感染症担当となった保健師3人に、印象に残っている事例との関わりや結核患者支援の実際等について半構造化面接調査を行い、逐語録におこしたデータを質的帰納的に内容分析し、新任保健師の結核患者支援の実態を明らかにした。次に結核患者支援に高い専門性を持っているとA県保健師長会長から推薦を受けた熟練保健師3名に、同様の内容・方法で面接調査を行い、逐語録におこしたデータから熟練保健師の結核患者支援の特徴を示す記述内容を抽出した。さらに、抽出した記述内容の共通性を検討しながらグループ化し、新任保健師の実態や困難感と比較検討した上で、新任保健師の結核患者支援の向上につながる熟練保健師の実践知を抽出し、以下の結論を得た。

#### 1. 新任保健師の結核患者支援の実態

新任保健師は、結核担当となった時は【結核担当として役割が果たせるか不安】を感じ【自己学習】【保健所上司や関係者の指導】、【研修】により不安感を克服していた。当初【患者の思いや結核病に着目した対象把握】【結核患者の背景としての家族の把握】【地域を視野にいた対象把握の不足】という対象把握を行い、【プライバシー保護の支援】【患者と家族の信頼関係構築】を心がけながらも【服薬支援の役割認識】【接触者調査の役割認識】を優先した支援を行っていた。一方、【患者個人の持つ健

康障害や発達段階、生活要因による援助困難感】【家族機能が発揮できない家族への援助困難感】【患者一看護者関係構築の困難感】などの困難感や、【保健所の業務分担体制による困難感】など組織の一員としての困難感も感じていた。その困難感を【結核患者支援の先輩からの指導】により克服していた。そのような新任保健師も、事例を積み重ねる中で、【安心感と服薬への動機づけのための早期の初回面接の実施】【患者一看護者関係構築のための心に働きかける支援】【患者の位置に立った服薬支援】【患者と医療機関をつなぐ保健師の役割発揮】【個別事例の評価や地域の課題を見出すことの重要性の理解】などの支援方法を身につけ成長していることが確認できた。さらに、結核担当として役割を果たそうと努力していくプロセスの中から、【結核患者への個別支援における達成感】【公衆衛生活動を担っている実感】などの達成感も感じていた。

#### 2. 新任保健師の結核患者支援の向上に活かす熟練保健師の実践知

- 1) 保健師の役割は結核患者が安心して治療が受け、完治するまで生活を支えるとともに、感染拡大を防ぐ責任があると捉える。
- 2) 家族も看護の対象として捉え、家族の心身の状態をアセスメントし、関係者と連携をとりながら問題解決が図れるように関わる。
- 3) 支援を拒む人は服薬中断の可能性が高い人と捉え、拒否されても頻回に訪問し、生活を支援しながら信頼関係をつくる。
- 4) 主治医や関係者は患者支援のために不可欠と捉え、日頃の関係づくりや密な情報交換を行う。
- 5) 服薬継続における苦痛や副作用など患者の抱える問題を引き出し、患者の立場に立った支援を一緒に考える。
- 6) 結核への高い専門性と不安を緩和する言葉かけが患者の信頼感につながることを意識して関わる。
- 7) 結核を発症した思いや不安の表出を促し、思

わる。

- 7) 結核を発症した思いや不安の表出を促し、思いを受け止めた上で、感染を予防し、治癒に向けてともに支援して行く保健師の役割を伝える。
- 8) 個別な事例を予防可能例の視点、治癒できたかの視点から評価するとともに、事例を通した地域診断から地域の課題を抽出し地区活動につなげる。